エコジン・レポート

楽しく、環境教育。

都会の真ん中で大自然を体感

体験しながら環境について学ぶ、環境教育プログラム。この夏休み、大人も子どももエンジョイできる、こんなプログラムに参加してみては？

文／宇治有美子　写真／キッチンミノル

エコギャラリー新宿

新緑がまぶしい6月の新宿中央公園。都心の喧噪を感じさせない緑豊かな公園の中に建つエコギャラリー新宿の開設記念3周年イベントに参加した。行政、企業、環境団体、まちの人々が企画運営に参画し、2日間で20を超える環境学習イベントが館内や新宿中央公園を使って行われる一大プロジェクトだ。最初に中山弘子新宿区長の挨拶。続いて「一人ひとりが、暮らしの中で何をしていけばいいか、考える1日にしていただきたい」という、このイベントを運営するNPO法人『新宿環境活動ネット』の代表、崎田裕子さんの挨拶とともにイベントは幕を明けた。

まず訪れたのは子どもを対象にした田植え体験。園内に設けられた2メートル四方ほどの水田に、子どもたちが稲の苗を手にしながら次々に入っていく。最初は勢いよく田んぼの中に足を踏み入れるものの、ぬかるんだ土に足を取られて戸惑うばかり。だが「今植えている3本の苗が秋には30本に育つから、しっかり植えようね」という指導者の言葉に、子どもたちの表情も真剣になる。

「都会では、こうした環境が少ないので、実際に目で見て手で触れてほしいと思って参加しました。毎日食べているお米がどのように植えられて育つのか知るのは、食育の一環としても貴重ですね」と我が子の奮闘ぶりに目を細める夫婦の姿も。田植えを終えた後、子どもたちの表情は達成感でいっぱいで、どこか誇らしくも見える。「収穫もやってみたい」と、田植えの作業を通してお米への愛着も生まれたようだ。

午後は、ネイチャーゲームに参加。まず、公園の木々の茂みなどにあらかじめ仕込まれたミニカーや紐、ガラスの小物などを探す、カモフラージュというゲームから。自然と同化した小物をじっくりと目を凝らして探すことで、観察力が格段に高められるという。一度視覚や聴覚が研ぎすまされると、普段なら見過ごしている動植物が鮮明に見えるようになるから不思議。身を守るために保護色をまとった昆虫や、木の葉の上を

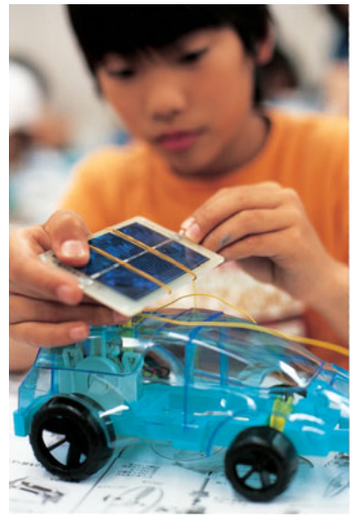
右2点／「ビオトープの会」による田植え体験。慣れない水田での移動に四苦八苦しながらも、土の感触や苗を植えていく作業を楽しむ子どもたち。
下／「緑のカーテン応援団」主催の講座。蔓性植物の苗を植えながら、その栽培方法を習う。
右下／「新宿中央公園自然クラブ」が行った、自然観察会。豊かな自然環境に驚く参加者たち。
左下／「江戸の郷よよぎネイチャーゲームの会」によるゲームに参加する子どもたち。遊びながら、自然への感度がアップしていく。

エコジン・レポート

楽しく、環境教育。

楽しく遊んでエコが身近に

東京ガス㈱環境エネルギー館 ワンダーシップ



上右／東京電力主催の、キットを使ってのソーラーカー作り。
中央／東京ガスによる、燃料電池に水素を送り込んで、模型を動かす実験。
左2点／「NPO法人まちづくりネット」による、まち美化体験。「ガム取り番」という溶剤を使うと、黒い斑点のようなガムがキレイにはがれる。

昆虫が歩いた形跡などが容易に見つかるようになる。参加者は何か発見するたびに大はしゃぎ。子どもだけではなく、大人も童心に戻って自然と触れ合うことができた。

つづいて公園全体を巡る自然観察会へ。この季節、花盛りのアジサイをはじめ、大輪の花をつけたタイサンボク、酸素の供給量が多いマテバシイなど、中央公園におよそ千本近くある木々や花々を観察しながら歩く。「人間は1日に360kgもの炭酸ガスを排出するといわれています。ですから、とくに都会では、炭酸ガスを吸収して酸素を出す緑の存在が非常に大きいのですね」というガイドの言葉に、15名ほどの参加者全員が深く頷く場面も。

この他、キットを使ってのソーラーカー作りや、公園の周囲の歩道に付着したガムをとる「まち美化体験」や、夏場に、壁面やガラス窓の外に蔓性の植物を添わせることで、温暖化を防止する緑のカーテンの講座など多彩な環境イベントが行われた。

「エコギャラリー新宿は学びの場というだけでなく、まちの人々の暮らしを変えていくことを目的にしています。例えばCO_2問題。企業では削減が進んでいる一方、一般家庭や地域ではまだまだ増え続けています。このイベントが、人々が暮らしや習慣を見つめ直すはじめの一歩になれば」と崎田さんは語る。

都会にいながらも、自然とたわむれ、その大切さを実感できる環境があること。そして暮らしを変えるには、まず〝環境について知ること〟が何より重要だと深く考えさせられた1日だった。

エコギャラリー新宿
〒160-0023
東京都新宿区西新宿2-11-4（新宿中央公園内）
イベントのお問い合わせ
電話03-3348-6277
e-mail：info@shinjuku-ecocenter.jp
URL：http://www.shinjuku-ecocenter.jp/

東京湾にほど近い横浜・鶴見の京浜臨海エリアで、ひと際目をひく近未来型の建物。「ここ東京ガス・環境エネルギー館では、未来を担う子どもたちに、環境についての正しい知識を持ってもらおうと、１００種類以上のプログラムを用意しており、平日は学校向けに、毎週土日にはファミリーに向けて、さまざまな環境学習プログラムを実施しています」とは、広報グループの江夏朋子さん。

今回参加した『ペレットさんの大変身！』は、ペレット（廃材になったガス管を溶かして小さな粒状にしたもの）でペンダントを作るリサイクルのワークショップだ。

「ポリエチレン製のガス管は、傘やハンガーなど、さまざまな日用品に生まれ変わっているんですよ」。インタープリターと呼ばれる同館のスタッフが、子どもに分かるようにリサイクルについて丁寧に説明した後、いよいよペンダント作りがスタート。赤、青、黄……用意された10色以上のペレットから、個性豊かな作品が完成していく。親子で共同制作したり、初対面の子どもが作品を見せあうなど、会場は和気あいあいとした雰囲気につつまれた。

午後に参加した『みんなでつくろう！　ワンダーシップ生き物図鑑』では、小川や池、小さな森などが設けられた屋上のビオトープを歩き、植物や昆虫を観察。最も気になった動植物をひとつ選んで、館内の環境情報センターへ。自分が見つけたのは、何科の何という昆虫や植物か。また昆虫なら何を食べ、どんな場所に住むのかを調べて、自然界の生態系を学びながら、オリジナルの生き物図鑑シートを仕上げていく。

「生き物が大好き」で、１００回以上来館している少女が今回選んだのは、セマダラコガネという昆虫。「背中の模様がまだらだから、こんな名前がついたんだね」とインタープリターが昆虫図鑑を見せると、身をのり出して実際の昆虫と図鑑を見比べる子どもたち。図鑑シートが完成したら、観察のために捕まえた昆虫を再びビオトープに返すのも自然界を守るためのルールだ。こうして子どもたちは自然との共生について学び取っていくのだ。

幼い頃から遊びの延長線で楽しく学べる、工夫を凝らした「楽習の場」として、同館の取り組みは今後ますます注目を集めそうだ。

ペレットさんの大変身！

ペレットが色とりどりのキュートなペンダントに。子供たちは工作を通して、リサイクルとは何か学んでいく。

まずはお菓子の型を使って、シールの上に、色とりどりのペレットを好きなようにのせる。

クッキングシートをかぶせて、アイロンかけて

丸まらないように板ではさんで、固まったらベロッとめくる。

出来た！

最後にハサミで形を整えます。

東京ガス（株）環境エネルギー館
ワンダーシップ
〒230-0045
神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-7
プログラムのお問い合わせ
電話045-505-5700
URL:http://www.wondership.com/

屋上のビオトープで植物や昆虫を観察。
館内でオリジナルの生き物図鑑シートを仕上げていく。

エコジン・レポート
楽しく、環境教育。